

一度相談してごらん

英語の授業をしているクラスに入った時です。生徒たちはタブレットを前にして口を動かしていました。そんな中で一人の生徒がペンを持って、背を丸めている姿がありました。そっと近づいてのぞいてみると、教科書の英文にカタカナでフリガナをつけていました。

その時にはそれが必要だったのでしょうか。仲間は口を動かしていましたが、自分もそうしようと思うと必要になってくるのがフリガナ、そう考えたのだと思います。時間は限られている。仲間がやっているように自分もやりたい。でも、できないから、まずはフリガナを……。この生徒は恐らく仲間が声を出している時間にフリガナをつけ終えることはできなかったでしょう。

私は、以前国語を教えた一人の生徒を思い出しました。彼は小学校に途中から入学した外国籍の生徒でした。日常の会話はできませんでした。国語の教科書の文章はなかなか読むことができませんでした。特に、漢字には苦勞していました。

私が範読するときには、仲間は静かに聞いていたのに、彼だけは漢字にフリガナをせっせとつけていました。もうそこから差ができてしまいます。本文が正確に読めず内容がつかめない彼と、大まかな内容がつかめて次に進もうとしている仲間たち。この差を何とかしてやらなければならないと思います、私はある方法をとりました。

まずとった手段は、その教材の学習に入る前に、私が彼の教科書の文章にフリガナをつけることです。私が指示した通り、新しい教材に入る前に、彼は私のもとに自分の教科書を必ず持ってきていました。

初めは私も頑張ってフリガナをつけていたのですが、長い文章になるとかなりの時間がかかります。次の授業前には彼に教科書を渡さなければならぬので、ゆっくりやっていられませんでした。私の方が参ってしまいました。

次の取った手段は、範読CDの音声や私の肉声を録音し、事前に彼に渡すことです。録音されたものを家で聞くことはできると言いましたので、何度も聴いて自分でフリガナをつけてごらんと指示しました。

これが見事に当たりました。彼は何度も何度も家で繰り返し聴いたようで、フリガナをつけるどころか、範読を聞いて読みをかなり上達させました。仲間とは質の違う家庭学習でしたが、彼に合った学習方法だったようでした。

英語や国語の読みの苦手な人たち、一度教科担任に相談してごらん。君たちから求めれば、北中の職員は親身になってアドバイスをくれると思いますよ。現状を打開しようと思うなら、それぐらいの勇気を奮い起こさなきゃね！。(六月二日記)